



ヨーロッパの十字路

ベルギー編①

「ビジネスで行く！オランダ・ベルギー六日間」の旅、オランダの首都アムステルダムからベルギー観光。空港から



すぐバスでベルギーの首都ブリュッセルに向かう。どちらの方向に向かっているのかわからないので添乗員に聞くと「南下している」という。私同様、ベルギーがヨーロッパのどの位置にあるかわからない方のため地図を掲載する。アムステルダムの南約二百キロにブリュッセルがある。ベルギーは北海に面し、オランダ、ドイツ、ルクセンブルク、フランスに接する。面積は約三万平方キロ、四国の一・六七倍の小国だが、海を挟んでイギリスにも近く、ヨーロッパの交通の十字路ともいわれる。

その歴史は大国の戦いに翻弄され、やつと一八三〇年にオランダから離れて独立国家となる。ドイツ、フランスなどの大国に対抗するため、一九四八年にオランダ、ルクセンブルクと共に経済同盟を結び「ベネルクス三国」と呼ばれるようになったと高校時代に習った気がする。ベネルクスの中に「オ」の字がないのは、オランダの正式国名がネーデルランドだからである。国旗がいずれも三色旗（トリコロール）というのも興味深い。

バスに乗ってしばらくすると妻が「オランダの空は大きい」と言う。高村光太郎の妻・智恵子が東京の空を見て「東京には空がない」と言ったことを思い出す。バスの両側を見ていると、山や丘陵は全くない平地である。オランダは国土の四分の一が海抜零以下。だから空が大きく、広く見える。

旅に出る前に司馬遼太郎の「オランダ紀行」を読んだのでオランダに関して多少知識がある。しかし、ベルギーの知識は皆無に等しい。ヨーロッパの要の位置にあるので NATO や EU 本部がブリュッセルにあることを知っている程度だ。

ホテルに着くと翌日からの観光のため持参したガイドブックを読む。オランダより国土は狭いのに世界遺産の数はベルギーの方が多く、中世の面影を色濃く残す国のようにだ。オランダといえば風車、チューリップ、運河を連想するが、ベルギーは何だろうか？

ガイドブックには

- (一) レース編み
- (二) ダイヤモンドの研磨
- (三) ベルギービール
- (四) ベルギーチョコ
- (五) 宗教絵画
- (六) アールヌーボー

とある。私の知っているものが一つあった。「小便小僧」だ。これがブリュッセルにあることは知らなかった。

訪れる都市はブリュッセル、ブルージュ、アントワープの三カ所。そこで何と出会えるのだろうか。かと期待に胸がふくらむ。



小便小僧は56センチと意外に小さい